

様式

若手研究者育成支援費に係る研究成果報告（ホームページ用）

| | (所 属) | (職 名・学 年) | (氏 名) |
|----------|---|-----------|-------|
| 研究者 | 文学科・国文学中国文学専攻 | 博士後期一年 | 周 瑛 |
| 研究の名称 | 『棠陰比事』と『本朝桜陰比事』及び他の裁判物の比較 | | |
| 研究のキーワード | 棠陰、桜陰、裁判 | | |
| 研究の概要 | <p>井原西鶴は日本文学史上初めて浮世草子という小説のジャンルを創出し、「好色物」「武家物」「町人物」「雑話物」などの作品を夥しく刊行していったが、元禄二（1689）年に発表した裁判にかかわる小説『本朝桜陰比事』は、中国宋代（1207年）に桂万榮が編集した裁判実話集『棠陰比事』の影響下にあるとされる。しかし、両作品の影響関係についてはいまだに判然としない。本研究では、それらの影響関係について、『棠陰比事』の日本での享受状況や環境、また表現や内容の面から実証的に考察し検討する。</p> <p>さらに、『板倉政要』にも注目する。『板倉政要』という作品は17世紀前半の京都市政を司った京都所司代板倉伊賀守勝重、板倉周防守重守、板倉内膳正重矩の裁判を集めたもので、『棠陰比事』にも、『本朝桜陰比事』にも関連がある。三者の内容を詳細に比較することを通じて、『本朝桜陰比事』の成立過程を一層明白にしたい。</p> | | |
| 研究の背景 | <p>『本朝桜陰比事』の内容や成立についての研究においては、中国側の『棠陰比事』や日本側の『板倉政要』を取り上げて検討したものが少なくない。しかし、まだ『本朝桜陰比事』を、『棠陰比事』の注釈書である『棠陰比事諺解』及びその作者である林羅山との関わりという視点から、十分に検討したものはない。実は『本朝桜陰比事』が受けた「棠陰」の影響は、羅山あるいはその著『棠陰比事諺解』とより密接に関連していると考えられる。そこで、「棠陰」、西鶴、羅山との関わりについて研究を進めるつもりである。</p> | | |

| | |
|---------------|---|
| 研究手法 | <p>文章の表現を中心として、常磐松文庫所蔵の林羅山の師藤原惺窩の旧蔵本『棠陰比事』や『棠陰比事』の注釈書『棠陰比事諺解』、『棠陰比事加鈔』や物語風に作られた『棠陰比事物語』などを比較調査、考察することを通じて、『本朝桜陰比事』との影響関係を実証的に検討する。</p> |
| 研究の進捗状況と成果 | <p>『棠陰比事』諸本と『本朝桜陰比事』を比較して、『棠陰比事諺解』が『本朝桜陰比事』に最も大きな影響を与えたことを明らかにした。更に、『板倉政要』との類似性を検討し、『板倉政要』の成立に『棠陰比事』が重要な役割を果たしたことを確認し、また、『棠陰比事』諸本の中でも『棠陰比事諺解』が最も影響していることを論じた。それ以外には、『本朝桜陰比事』の巻一を中国語に翻訳した。</p> |
| 地域への研究成果の還元状況 | <p>『棠陰比事』諸本間の異同や『本朝桜陰比事』及び『板倉政要』との影響関係を実証することで、単に西鶴のみならず、講談・実録といった他のジャンルにおける「裁判もの」とのつながりや、近世文学における中国文学の影響を考察する研究の基盤とすることができる。</p> <p>それに、『本朝桜陰比事』の中国語翻訳は、中国人の学生や研究者にとって日本の裁判話や西鶴作品の特徴を把握するのに役立つだろう。</p> |
| 今後の期待 | <p>『本朝桜陰比事』が日本に伝来した『棠陰比事』諸本の中で林羅山が注釈した『棠陰比事諺解』から最も大きな影響を受けた環境があることをひきつづき実証したい。</p> |
| 研究発表 | <p>1 「『本朝桜陰比事』と『棠陰比事』の表現の一考察」 （和漢語文研究 第8号 平成22年11月）</p> <p>2 「『板倉政要』をめぐる諸問題——『棠陰比事』と『本朝桜陰比事』とに関連して」 （京都府立大学和漢語文研究会口頭発表 平成22年12月）</p> |